来賓講話　「憲法改正を最大の争点とせよ！」小林正先生

小林正先生

元参議院議員・新緑風会政策審議会長。当国民会議理事、教育評論家

東京都出身、昭和８年生。横浜国立大学学芸学部卒。川崎市公立学校教諭。神奈川県教組執行委員長から、社会党より参議院議員に当選。その後、社会党を離党。新緑風会政策審議会長等を務める。国会議員引退後は、当国民会議理事。また、教科書の偏向是正はじめ、各教育団体に属し、教育評論家として活動している。

ご紹介いただきました小林正でございます。

第二次世界大戦後の国際秩序、平和と安全の世界を築く国際機構として国連ができました。その中核となる安全保障理事会、その常任理事国であるロシアが昨年の 2 月 24 日、国連のあらゆる諸情報に照らしても完全な戦争犯罪である侵略を開始いたしました。これはどんな意味を持つのか、もはや世界は国連という安全保障の機構に頼れないという状況を作り出している。なぜか、安全保障理事会の理事国であるロシアが安全保障の根底を揺るがす侵略行為をあからさまに隣国のウクライナに対して行った。それだけではありません、ブチャをはじめ東部の各地域あるいは南部の諸都市において非人道的な様々な犯罪行為を行っております。一般民間人に対する殺戮行為、子供の拉致、そして自国民も含めてすでに 20 万人以上が犠牲になったと言われているような状況。これを自ら作り出しているプーチンという存在、これがある限り、私は北方領土問題を抱えるわが国、そして北海道に対して終戦以来、執拗な野望を持っているロシアを隣国に持っているという意識。それを含めて、同調する北朝鮮、さらに度々首脳会談を行っております中国の習近平の存在。彼の意図、これももう皆さんはっきりお分かりだろうと思います。つまり、ロシア・北朝鮮・中国という 3 カ国と国境を接している我が国が、これからどう安全を確保し、同盟を強化して生き延びるか。この瀬戸際に今立たされているわけであります。

2 月 24 日というのはそういう意味で、大変大きな節目となりました。私たちは憲法改正の問

題が今日のテーマでありますけれども、憲法の手続きをしながら、憲法審査会のお話も承りながら感じておりますのは、おそらく国民の皆さんもそうだと思いますが、何でもっとスピード感を持ってできないのか。こんな状況の中で一刻も早く自国が安全と生存を守るための仕組みを作れないのか。日本の主権と独立というものをどう考えているのかという国民の皆さんのいろんな思いというものを直に日々のメディアを通して感じております。私は議論をしている問題よりももはや、決定をすべき時期だと。何を決定するか、憲法改正をするための国民投票を実施するそのための政治の役割というものを履行してもらいたい。そういう風に思います。

そして来るべき解散総選挙。その段階ではそれぞれ各党会派が憲法改正を最大の争点として国民に選択を求める。こういう形を作っていただきたい。そうでなければその次なのかと、じゃあ一体いつになるんでしょうか？そういう瀬戸際に、今来ているということを今日の大会を通じて、お二方の国会議員の方々の話も含めて痛切に感じた次第であります。是非、今日を機会に国民運動としても政府に政治的決着を迫る、そういう国民運動に変えていく必要があるのではないでしょうか。

以上持って私の話を終わります。ありがとうございました。

（拍手）